

令和6年度 学校経営計画・学校評価シート				高知若草特別支援学校土佐希望の家分校			
《高知県の教育の基本理念》	(1) 学が意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	目指すべき姿	学校像	○児童生徒が自己実現を達成できる学校 ○保護者が成長と発達を実感できる教育を行う学校 ○地域になくってはならない存在として愛される学校 ○教職員が仕事に誇りをもち、やりがいを感じる学校	目指すべき取組の概要に		(1) 学校教育目標、教育課程、日々の授業のつながりを意識したカリキュラムマネジメントサイクルの確立による児童生徒一人一人の実態に応じた教育課程の編成 (2) 卒業後の自立と社会参加を見据えた教育の充実と豊かな心の育成 (3) 教員の専門性の向上と指導力の育成 (4) 児童生徒の命と人権を守る安心安全な学校づくりの推進 (5) 特別支援教育のセンターとしての支援機能や情報発信、保護者、関係機関等との連携による開かれた学校づくりの推進 (6) 学校教育目標の達成をめざし、やりがい、働きがいのある学校組織の運営と働き方改革の促進
《取組の方向性》	《4つの基本方針》 ①「高知家」の全ての子どもたちが、急速に変化する予測困難な今後の社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②「高知家」の子ども誰一人取り残さず、多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③「高知家」の誰もが、生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④「学校における働き方改革」、「チーム学校の推進・強化」、「教員等の人材確保に向けた取組」の一体的推進		児童生徒像	(知) 自ら学ぶ ○学ぶ楽しさを感じ、自ら進んで学習する意欲や態度を身に付けた児童生徒 ○社会生活に必要な知識や技能、態度を身に付けた児童生徒 (徳) 意欲、協調、協力 ○人や環境と積極的にに関わり、自立(自律)し社会参加しようとする意欲をもった児童生徒 ○お互いを認め合い、思いやりの気持ちで協調、協力しようとする児童生徒 (体) 健康、体力 ○卒業後も一人一人の持てる力を発揮し、将来にわたって豊かに生きるため、健康や体力、基本的生活習慣を身に付けた児童生徒			

《重点取組項目》				(評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)									
項目	取組のねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】					
学校設定項目	教育課程の質の向上	【現状・課題】 ○公開授業を年間2回行い、2回目の研究協議では、1回目の振り返りをもとに反省点や改善点について協議を行うことができた。 ○公開授業や単元計画作成時間等を設けることで、単元計画表の蓄積ができた。 ■学習形態について、各教科等あわせの指導など合わせる教科等が多く、教科や授業を振り返りが困難であった。 ■年間計画と単元計画、授業との関連性が不十分であり、また、育成すべき資質能力と観点別評価の整合性が取れていないものがあった。 【目標】 ①系統性を意識した年間計画の作成及び単元計画案の作成・充実を図る。 ②児童生徒の実態に基づく各教科の目標設定や観点別評価を行い、指導と評価の一体化を図る。 ③年間計画や単元計画表の事例を蓄積し、実践をまとめる。	①系統性を意識した年間計画の作成及び単元計画案の作成・充実を図る。 ・全教員が2サイクルの公開授業及び事後の協議を実施し、授業改善を図る。 （研究部） ・教育課程改善シートを活用し、教育課程の改善を図る。 （教務部） ②児童生徒の実態に基づく各教科の目標設定や観点別評価を行い、指導と評価の一体化を図る。 ・教科の目標設定及び評価ができていのかの検証を行い、児童生徒への還元を図る。 （各学部） ・年間計画を意識した単元計画の作成、授業の実践を行い、発達段階別に分かれたグループでの検討を行い授業の系統性を図る。 （学部・研究部） ③年間計画や単元計画表の事例を蓄積し、実践をまとめる。 ・各発達段階別グループで検討・蓄積した年間計画や単元計画表をまとめ、事例集を作成する。 （研究部）	B	①1学期に全教員が、公開授業を実施した。また、授業後の事後研修も全員実施し、2学期以降の2サイクル目の授業に向けての改善点を明らかにして授業改善に取り組めるよう研究部を中心に意見交換をすることができた。 【公開授業、事後研修の実施率100%】 ②年度当初から各学部で合科、教科等あわせの指導について検討し、合わせる教科等の精選を行った。 ②教育課程の改善や各教科における目標設定、学習評価等の充実を図るため、教育課程研究集会において文教大学教育学部北川先生に、2学期早々には上野学園短期大学部の下山先生の研修会を計画、実施した。研修では教科の見方・考え方が土台とする自立活動との関連性について学ぶことができた。 ③年間指導計画、単元計画について、各学部や発達段階別のグループで検討を行い、事例集を作成する。 ③単元計画作成時間、話し合い時間を設け、単元計画作成の推進を図り、それらを蓄積している。	B+	①2学期以降、11月末までに全教員の2サイクル目の公開授業を実施する。 ①教育課程改善シートを用いて、各教科の時間数や合科、各教科等あわせの指導の組み合わせについても検討、編制する。 ②北川先生や下山先生の講演内容を受け、教科の見方・考え方について再度検討を行い、次年度の教育課程につなげる。 ②合科及び教科等合わせた指導について、今後も教科数や内容についての検討を重ね、次年度の教育課程及び時間割に反映できるようにする。 ③各学部や発達段階別のグループ研究において、年間指導計画や単元計画を検討するとともに教材・教員や指導内容についても検討し、実践したことの共有を図る。 ③発達グループ別での事例検討会を今年度も実施する予定、グループ内で検討を重ね、3学期には各グループでの発表を行い、課題の共有を図る。	B+	1 年間計画・単元計画の作成、充実及び教科等の系統性 ・年間計画・単元計画を活用し、同じ教科で2回の公開授業を行った。1度目の反省点や改善点を2回目の授業の中に「何をどう工夫・改善したのか」を事後で報告、成果や評価の共有を行った。 【公開授業、事後研修2回実施 100%】 2 目標設定及び観点別評価を行うとともに指導と評価の一体化を図る ・教科の見方・考え方という点では、教育課程研究集会にて北川先生、校内研修会にて下山先生からご教示いただいた。特に下山先生のご講演では、重度重複の児童生徒の教科学習の学習内容についてどう考えるのか等、今現在の方向性を反対側からも考えながら本校独自の教科の見方・考え方を確立する必要があることを研修後、教員間で共有した。 3 実践事例集の作成 ・2回の公開授業、単元計画作成時間及び話し合い時間、グループ別研修、校内研修における事例発表会など昨年度からの2年間、様々な場面で検討、蓄積してきた事例を事例集として発行する。【2月末に完成予定】	B+	○学校評価アンケート結果 ○授業づくりや学習評価について 【肯定評価 94.9%】 ○個別の指導計画等の説明および学習評価等について 【肯定評価 94.9%】 ・これからの工夫・いっばいの授業を引き続きお願いしたい。 【学校運営協議会】 ・公開授業について、教員全員が見る機会があることは良い。 ・入学前は伝えることができなかったことがICTの活用で伝えることができるようになった。 ・言葉も少なく、自分からあまり話をしなかったが、伝えようとしてできるようになって感動した。 ・一人一人に合うような細やかな教育を行ってくれた。	B+	1 年間計画・単元計画の作成、充実及び教科等の系統性 ・年間計画・単元計画等を活用した公開授業の取組については、次年度も継続して実施することで教員の力量アップにもつながるので継続する。 2 目標設定及び観点別評価を行うとともに指導と評価の一体化 ・教科の見方・考え方という点においては、複数年計画で全ての教科の学習内容や教材等について、実践及び検討を重ねながら本校の児童生徒にとっての教科学習の系統性と妥当性を模索する。 3 実践事例集の作成 【2】の実現に向けて、公開授業のデータの蓄積や教材の検討の蓄積等を事例集として作成する。
		教員の専門性の向上 専門性の向上・教育内容の充実	○自立活動と教科の関連性の理解と時間の指導の充実を図る ○個別最適化をめざすICTの効果的な活用を図る ○関係機関との連携強化	【現状・課題】 ■自立活動については、自立活動抽出シートの研修を行い、作成時期には各学部等においてもすり合わせを行ってきたが、教科との関連性等まだ十分でないところがある。 ○ICTの児童生徒への活用率は、昨年度100%であった。 ■Google Works for Educationについては、昨年度研修予定であったが実施できなかった。 ○隣接の土佐希望の家医療福祉センターと連携を図りながら学習活動を行うことができた。 ○外部専門家の活用について、ST、PT、ORTなど専門家の研修を受講し、児童生徒の実態把握や支援の参考となった。 【目標】 ①自立活動の指導と配慮について理解を深める。 ②児童生徒の実態に合わせたICTの有効的な活用を目指す。【ICT活用率100%】 ③関係機関と連携し、児童生徒の実態に即した課題解決を図る。	①自立活動の指導と配慮について理解を深める。 ・自立活動と教科の関連性についての理解と時間の指導の充実を図るために、基礎的な研修や日々の学習活動において、単元計画表を活用し、確認を行う。 （研究部、各クラス） ②児童生徒の実態に合わせたICTの有効的な活用を目指す。 ・授業の導入や個々の児童生徒のコミュニケーション手段等、有効的な場面での活用を行う。（各クラス等） ・ICTの活用場面を模索するため、アプリ等についての研修や教員間での情報の共有を行う。 （児童生徒部） ③関係機関と連携し、児童生徒の実態に即した課題解決を図る。 ・個々の児童生徒の実態に即した研修会や専門家からのアドバイスを受け児童生徒への支援の参考とする。 （研究部） ・自立活動充実事業の活用。 （研究部） ・隣接施設と連携し相互の活動や支援等の共有を図る。 （学校全体）	B	①自立活動目標設定シートの活用について、4月当初に研修を設定（研究部）し、全教員が活用の仕方について学んだ。本研修については、毎年同じ内容で継続して行っており、自立活動の基礎・基本に基づいての積み重ねとなっている。 ②今年度も全児童生徒のICT活用率は100%である。 ②教員研修としてGIGAスクールサポーターの来校日に合わせて、Googlechromeのアプリについて実際に操作しながら研修を行った。 ③1学期は自立活動充実事業として外部から下元PTや隣接施設の各本STから体の動きや摂食指導について学んだ。	B+	①下山先生の研修を受け、自立活動が教科の土台であるということ学んだ。今後は、教科の土台となっているのかどうかを含め取扱いを明確にしていく必要がある。また、単元計画を作成する中で、自立活動を意識した計画表となるようしっかりと記載する。 ②引き続き児童生徒のICT活用率100%及び活用内容の幅を広げる。そのためには教員一人一人の力量アップを目指し、効果的な研修を行う。（2学期GIGAスクールサポーターによる研修を予定） ③2学期以降も外部専門家活用事業を活用し、年間2回を予定している下元PTの研修や森澤ORT、特別支援学校の教諭等にも協力を仰ぎ、児童生徒の実態把握に役立て、本校の学習活動の充実を図る。	B+	1 自立活動の指導と配慮事項 ・「自立活動とは？」の研修を毎年4月当初に実施し、肢体不自由な本校における自立活動の重点的な内容や環境整備等、配慮事項について、繰り返しの研修を行った。次年度もまた、継続して本研修を実施する。 2 ICTの有効活用 ・全児童生徒が毎日それぞれの実態に応じた形でICTを活用している。【活用率100%】 ・教員においてはGIGAスクールサポーターと連携し、様々なアプリの使い方についての研修を行った。 【年間2回予定、2回実施】 3 関係機関との連携および自主研修 ・隣接の土佐希望の家医療福祉センターや外部の専門家を招いての研修を実施。本校の児童生徒に合わせた研修を行うことができた。 土佐希望の家医療福祉センター → ST その他 → ORT、PT、相談支援専門員他 ・今年度から教員が互いに学び、高めあえるよう自主研修を設定した。教材製作（BDアダプター等）や研修の中で、個人の悩みを相談する場所として活用することができた。	B+	○学校評価アンケート結果 ○自立活動の充実について 【肯定評価 97.4%】 ○ICTの活用について 【肯定評価 92.3%】 ○外部の専門家の活用について 【肯定評価 92.3%】 【学校運営協議会】 ・専門家の意見を聞くことでみんなのレベルも上がる。教員のレベルが上がるよう協力したい。 ・ICT等、サポートすることによっていえることができるが増える。
キャリア教育の充実	○キャリアを含めた視点で、子どもの重点目標を達成する。 ○子どもたちの未来を支える環境教育を推進する。 ○子どもたちの豊かな生活につながる文化、芸術、スポーツ活動の充実を図る		【現状・課題】 ■昨年度、キャリア発達段階表の見直しを行ってきたが、改正までには至らず、十分な見直しができなかった。 ○児童生徒の卒業後も持続可能な活動を授業の中に取り入れ実施することができた。 ○今年度の文化芸術活動はいくつかの作品展に出品し、入賞することができた。 ○PTA活動の一環で、ファミリーコンサートを2回実施することができた。 ○スポーツ部門では肢体不自由部門のある学校（5校）でのポッチャ大会を主催校として実施することができた。 【目標】 ①卒業後も継続できる活動を模索し、児童生徒の興味関心の広がりにつながる。 ②文化芸術、スポーツ活動の取組を推進する。【12月末肯定評価90%】	①卒業後も継続できる活動を模索し、児童生徒の興味関心の広がりにつなげる。 ・本校児童生徒の実態に合ったキャリア発達段階表の作成。 【令和6年度内完成】 （進路・地域支援部） ・児童生徒の興味関心のある活動内容や教材について、発達段階別のグループ別研修や校内自主研修等で研究、検討し、授業に活用する。 （研究部他） ②文化・芸術・スポーツ活動の取組を推進する。【12月末肯定評価90%】 ・若草3校の交流イベント（4校合同作品交流会、スポーツ交流会）への参加。 （教務部） ・紙とあそぼう作品展等への出席。 （学部） ・芸術鑑賞会やとき運動会等の開催。 （総務部・児童生徒部）	B	①キャリア発達段階表について、進路・地域支援部を中心に他県の重度重複の児童生徒が在籍する学校の資料を参考にしながら、ときき向上委員会でも検討・見直しを行っている。 ②文化芸術面においては、紙とあそぼう作品展に小学部、中・高等部が出品した。小が「高知県手書きと紙協同組合理事長賞」を中・高等部が「土佐和紙賞」をいただいた。 ②スポーツ活動として、肢体不自由の部門のある特別支援学校5校でスポーツ交流を行う予定となっている。現在、今年度の事前の会を実施し、今後、開催日時等詳細について検討していく。	B	①キャリア発達段階表については、今後も、ときき向上委員会にて検討し、年度末には完成させる。 ②文化芸術で面では、若草本・分校等による巡回作品展を実施。各校の取組を知る機会とする。また、スピリットアートへの出展も行う。 ②スポーツ面では、12月に肢体不自由部門のある5校で交流会を実施。交流会のスポーツ部門の企画担当校としてイベントを成功させる。 ②12月に行う予定の学校評価アンケートで肯定評価90%以上。	B	1 キャリア発達段階表の見直し ・昨年度から見直し、改定版の作成を行ってきたキャリア発達段階表について、今年度もときき向上委員会の中で見直ししてきた。本年度完成を目指して取り組んだが、現在改定率50%ほどで次年度も継続して実施する。 【令和6年度完成→令和7年度に修正】 2 文化・芸術・スポーツ 【文化芸術部門】 肯定評価 100% ・芸術鑑賞会（カンパ、大道芸） ・紙とあそぼう作品展 小学部 高知県手書きと紙協同組合理 理事長賞 高等部 土佐和紙賞 ・スピリット・アート展（高等部）2作品出品 ・南国市展出展（高等部）2作品出品 ・4校合同作品展 【スポーツ部門】 肯定評価 94.7% ・ときき運動会実施 ・スポーツ交流会参加	B	○学校評価アンケート結果 ○文化芸術について 【肯定評価 100.0%】 ・作品展への取組のおかげで作品を見に行こうと外に出る気持ちになった。 ・作品展覧会の作品を見るのと力作揃いで、クオリティーの高さに驚かされた。 ○スポーツについて 【肯定評価 94.7%】 ・これからの工夫・いっばいの授業を引き続き競技種目を検討していく。 【学校運営協議会】 ・毎年紙とあそぼう作品展を見に行くと、教員の計画性やみんなを参加させる姿勢はすばらしい。	B
	働き方改革	○効果的な教育活動を行うために、現状を問い直し業務の改善を進める ○自らの働き方に向き合うことで、生活の質を高め、教職人生を豊かにする ○風通しのよい職場づくりに向けての環境整備を行う（ヒト、モノ）	【現状・課題】 ○毎週木曜日を教材研究日とし、授業の準備や教材づくり等自己研鑽の時間を取ることができた。 ■年次研の悩みや教材づくりについて気軽に相談することができる環境づくりをしてほしいという意見があった。 ○業務内容の精選は行ってきたが、ライフワークバランスについては学校評価アンケートの結果からも不十分な面がある。 ■業務の偏りについて、できるだけ集中しないように校内での割り振りを行ってきたが、個人的に集中する人がいた。 ○年休等教員が不足するときの協力体制について一定のルールを設けたことで、気持ちよく協力して業務に取り組む。 【目標】 ①業務の効率化を図るために業務の在り方について検討を重ね、児童生徒に向き合う時間や教材研究の時間を確保する。 （12月末肯定評価100%） ②教職員一人一人がタイムマネジメントに取り組み、ワークライフバランスを意識した働き方を実践する。 （12月末肯定評価90%） ③お互いに協力し合える環境や業務の効率化を図るための魅力的な職場環境の創出に向けて取り組む。 （12月末肯定評価90%） ④不祥事防止に係る定期的な意識啓発を図る。 （2回以上の個人面談及び不祥事に関わる研修の実施）	①業務の効率化を図るために業務の在り方について検討を重ね、児童生徒に向き合う時間や教材研究の時間を確保する。 （教務部、各学部） ・毎週木曜日を教材研究日とし、単元作成時間、単元検討時間や自己研鑽できる日とする。 （教務部、各学部） ・教材や指導案等の悩み解決の一環として、自主研修を設定する。 （研究部） ②教職員一人一人がタイムマネジメントに取り組み、ワークライフバランスを意識した働き方を実践する。 ・平時18:30までに退勤。繁忙期は19:00までに退勤できるよう退勤時刻が近づいてきたらアナウンスをする。 （教頭） 【達成率90%以上】 ・毎週木曜日をNo残業デーとし、17:30には退勤できるよう職員朝礼等でアナウンスする。 （教頭） 【達成率70%】 ・日々の業務の偏りをなくすよう、折に触れてアナウンスをする。 （教頭） ・1日の始まりを意識し、ラジオ体操等心身の準備を行う。 （総務部） 【ラジオ体操参加者60%】 ③お互いに協力し合える環境や業務の効率化を図るための魅力的な職場環境の創出に向けて取り組む。 ・職前、教員の不足等学部主事間で協議し、協力体制を組む。 （学部主事） ・締切のある書類等、学部やクラス、分掌部内で声を掛け合い、期限を守る。 （学校全体） ・報告・連絡・相談を徹底する。 ④不祥事防止に係る定期的な意識啓発を図る。 （不祥事防止委員会） ④2回以上の個人面談を行う。 ・不祥事防止に係る研修を実施する。	B	①教材研究日は、単元作成や話し合い時間、各クラスや教科の担当同士での教材づくりや授業の打ち合わせなど日々の授業づくりに費やす時間として、活用できる。 ①研究部マネジメントとして、個々の悩みや苦手な業務に対し、自主研修を実施し、必要な教員の後支えとなるよう内容を精査し、運営を行っている。 ②平常時の退勤時刻は18:30としている。繁忙期以外はほとんどの教員が退勤できている。 【達成率90%以上】 ②今年度もNO残業デーについて、毎週水曜日の職朝でアナウンスをしているが、全員の退勤は難しい。2割から3割の教員が18:30の退勤となることが多い。 ③職朝等で各学部の児童生徒、教員の動向について情報共有し、学部主事が教員の調整を行うことで、協力体制もスムーズに行っている。 ③報告・連絡・相談が不十分なことがあり全体に再度周知することが何度あった。 ③ラジオ体操参加率は3～4割程度で目標には届いていないが、体操中に体を動かすなど、個々に合わせて動きはみられる。 ④不祥事防止の委員会（月1回）及び研修（夏季休業期間中）を実施した。	B+	①教材研究日は、継続して実施する。 ①自主研修については、今後も学校のニーズや個人の力量アップにつながるような内容を検討して実施する。 ②学校稼働日について、18:30退勤とし、退勤時刻10分前には退勤時刻のアナウンスを行う。NO残業デーについても同様で、今後も職朝等でアナウンスを実施する。 ③学部間での情報共有は主事を中心に今後も継続し、協力体制を維持する。 ③報告・連絡・相談については様々な周知の場で行う。 ④不祥事防止委員会は、今後も毎月1回は実施する。	B+	1 教材研究日の活用 ・毎月隔週の木曜日を単元計画の作成時間や話し合い時間とし、授業の内容や自己研鑽できるように設定し、予定した時間は設定することができた。 ・今年度から自主研修の時間を設けたことで、教材づくりや学習内容について話し合う場となった。 ・自主研修等時間を設定することで、それぞれが取り組むたい研修や自己研鑽ができ、意見交換もできている。 2 ワークライフバランスを意識したタイムマネジメントの実施 ・18:00以降の教材準備や残務整理をする教員は年間を通して平均で全体の約半数～1/3程度である。18:20分には退勤時間のアナウンスとし、繁忙期を除いて18:30には全員退勤している。 【達成率90%以上】 3 協力し合える教員体制 ・勤務前の時間を利用して福利厚生として今年度もラジオ体操に取り組んできた。【参加率約50%】 ・学部間の連携は、職朝後の学部主事間での打ち合わせはもとより、教員が主体的に協力しようとする声や掛け合う場面もよく見られる。 4 不祥事防止に向けて ・目標設定シートの面談において、教職員一人一人か、各々で取り組めるものについて質問、目標設定することで意識した取組につながった。 ・毎月の運営委員会を不祥事防止委員会と兼ね、実施した。 ・ハラスメントの研修は、たくさん種類があることに驚きながらも、研修後は、教員同士学んだことを口に出しながら、互いに意識することができた。	B+	○学校評価アンケート結果 ○業務の改善について 【肯定評価 56.5%】 ○タイムマネジメントの工夫について 【肯定評価 53.2%】 ○働きやすい職場について 【肯定評価 52.2%】 【学校運営協議会】 ・不祥事防止委員会だけでなく良いことを前面に押し出していくことと同時にマイナスのことも出せる組織風土を育てていく。 ・マイナスのことが起こったときには周囲の人の気遣いはおかしいと言える雰囲気づくりが大切である。 3 協力し合える教員体制 ・今年度同様主事を中心に調整し、協力し合える体制を構築していく。また、分掌間においても、協賛で研修会を実施するなど分掌の枠を超えた協力体制も目指す。 4 不祥事防止 ・次年度も運営委員会を不祥事防止委員会を兼ねる会とし、学校全体で確認し合える環境と互いに注意し合える、協力し合える風土づくりを行う。	